

生野の遺跡から見た 大阪の歴史

生野区にある考古学の遺跡はおもに西部に分布し、それより東では点在するかたちで見ついています。それは上町台地の東縁部から大阪平野にかけて立地する、この地域の地形と強く結び付いた特徴と言えます。

今回は、生野区やその周辺にある遺跡について、古地形との関係や、古代の難波宮、百済郡との関わりを考えながら、近年発掘調査で明らかになってきたことをご紹介します。また、それが時代を越えて、近・現代の都市大阪が拡大・発展してきた歴史とどのようにつながるのかにも触れていただきます。

講師：佐藤 隆氏 (さとう たかし)

(大阪市教育委員会事務局総務部文化財保護課 主任学芸員)

平成元年から財団法人大阪市文化財協会(現公益財団法人大阪市博物館協会大阪文化財研究所)で、大阪市内の発掘調査に従事。中央区難波宮跡・大坂城跡や平野区長原遺跡・喜連東遺跡など、多くの遺跡の発掘調査を担当。その間、平成13年から平成18年まで大阪歴史博物館で学芸員。

平成24年から現職。専門分野は日本考古学、陶磁史。

平成28年2月13日(土) 14時～16時

場所：大阪市立生野図書館 会議室

定員：60人(当日先着順)

<関連企画>

ケース展示「生野区の古代遺跡 ～近年の発掘調査から～」展 2月2日(火)～2月19日(金)



お問い合わせ：大阪市立生野図書館
生野区勝山南 4-7-11
TEL 06-6717-2381

<http://www.oml.city.osaka.lg.jp/>